

アジア留学生への「短期特別研修事業」参加に関する 5 年間の報告

金田 晋

広島大学は、今活気がある。研究面でも、人材育成という面でも、国際競争力を一段とつけている。今年度はじまった「タイプA・スーパーグローバル大学創生支援」に選ばれた。全国の大学13校(旧7帝大と、私立の早・慶2大学、東京工大、東京医科歯科大、筑波大、それにわが広島大学)の一つに選ばれた。さまざまな選考指標のうちに、留学生数もその指標も加えられている。

広島大学では、世界に向けて以前から積極的に留学生募集を広報してきた。2010年度から、特にアジアの大学で日本語、日本文化を専攻し、日本の大学に留学を希望している学生を対象に、「短期特別研修事業」を開催している。2週間という短期間であるが、外国人学生向けのオープンキャンパスである。日本文化・日本事情についての基本的知識を学びながら、この大学で本格的な学修、研究したいと思うようになってほしい。そんな優秀な学生を一人でも多く増やしたいという、切なる願いが広島大学にはある。

本研修事業は、2010年度にはじまった。われわれの関与したのは、2011年2月、中国人を対象にしたクラス(冬期)からであるが、毎年成長している。2年目(2012年度)には、夏(中国)、冬(台湾)の2か国、計2クラスとなる。3年目(2013年度)からは、夏冬それぞれに中国人向けクラスと台湾人向けクラスを開設し、計4クラスを開設することになった。さらに2014年度夏には、新たに非漢字圏クラスが登場した。

本研修事業には、広大マスターズ、広大マスターズ広島の両マスターズに担当講師の派遣の要請があり、承諾した。当初は大学留学生センター長から、2013年からは国際担当の理事・副学長等から協力の依頼を受け、長年の豊かな教育経験を期待しての委嘱である旨の説明があった。10年度(11年2月)には、広大マスターズから、井上宣邦(「暮らしの中の無線」)、有本章(「日本の大学事情」)、安藤忠男(「日本の環境問題」)、西川恭治(「日本の文化と遊び-小倉百人一首かるた-」)、黒川正流(「リーダーシップと職場」)の5人が計5授業時を担当した。11年度(12年2月)には、夏(中国クラス)は広大マスターズ広島にまかせ、冬(台湾クラス)を広大マスターズが引き受け、安藤忠男(「日本の環境問題」)、井上宣邦(「生活の中の通信」)が継続し、新たに渡部和彦(「日本のスポーツ・サイエンス」)、(金田晋「日本の絵巻物「鳥獣戯画絵巻」」)が加わり、計8授業時を担当した。12年度以降は夏、冬期とも、中国クラス、台湾クラスそれぞれ2クラスに増やしたため、広大マスターズと同広島は、たすき掛けで担当することにし、夏は台湾クラス、冬は中国クラスを担当することにした。12年度は夏、冬各1クラス計4授業時。13年度冬以降、広大マスターズが同広島の分も引き受けて、渡部(「日本の伝統スポーツと礼-武術から武道へ(剣道の実技あり)-」)、金田(「日本の絵巻物「鳥獣戯画絵巻」-日本漫画の源流-」)の2人で全クラスに同じ講義題目の授業を、計6授業時担当することになった。さらに14年度夏には、「非漢字圏クラス」が新たに開講し、渡部、金田が同じ題目の講義をした。計10授業時である。

広島大学では、留学生が少しずつ増えているが、現在1678名であり、10年後にその2.5倍、約5000人を目指している。10年後、世界トップ100位以内に入ることを目標に平仄を合わせている。(平成27年4月5日記)